令和５年度　学校自己評価システムシート（教科編）

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を３本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校

重　点　目　標	生徒一人一人により高い次元で勉強と部活動を両立させるとともに、学校生活をとおして、自己管理能力を育成する。

	学　校　自　己　評　価		
	年　度　目　標		
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
国語	①文章を読み取り理解する力、話したり書いたりして表現する力 ②文章の読み書きに必要な常用漢字 ③読解、表現に必要な語彙力 ④言葉を通して他者や社会に関わり、自分の考えやものの見方を豊かにする力	①④グループワークやペア活動を行うとともに、授業内で課題を提示する。 ②定期的に小テストを実施する。 ③辞書（クラウド辞書含む）の活用と課題の実施。	①各学期における欠点保有者が各科目１０名以内か。 ②各学年で各学期に８回程度実施できたか。 ①③課題未提出者が各科目受講者の１０％以内か。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
地理歴史	①現在の日本と世界を取り巻く情勢について理解し、これから起きるであろう問題について考察する力。 ②資料や史料に触れ、正しい情報を読み取り、問題に解答することに活用したり、他者に伝える力。 ③提示された問題に対し、グループ活動や個人活動を通じ、問題解決に向けて必要な学習活動について立案する力。	①インターネットの利用などを通じ、現在社会全体が直面する問題や課題について適宜生徒に発信する。 ②授業内での資料集や地図帳、PPTの活用を通じ、情報の読み取りについて生徒に伝え、考査問題において生徒が得た情報のアウトプット作業を行う。 ③授業内において積極的にグループ活動をや調べ学習を行い、主体的に学習する姿勢を身につけさせる。	①②各学期における欠点保有者が各科目内で１０名以内に収まっているか。 ③年末実施の生徒アンケートにおいて、「楽しいまたは充実していると感じる教科」及び「わかりやすい教科」の項目において、「地歴公民」の回答数が前年度より増加しているか。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
数学	①数学における基本的な概念・原理・原則を理解する。 ②見通しを持って学習を計画し、基礎学力を向上させる。	①②内容を精選するとともに、課題を適切に設定し、復習および家庭学習の時間を作らせる。	①②各学期の欠点保有者が１０名未満になったか。 ②課題の未提出者が０名となったか。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
理科	①各科目における基本的な概念・原理・原則の理解 ②科学的な探究をするために必要な観察・実験などに関する技能	①-1演示実験や動画教材等を取り入れ、生徒の興味を喚起する。 ①-2理解を深めさせるため、授業内に演習の時間を設ける。必要に応じて演習問題に対する解説プリントを作成し、家庭学習を促す。 ②各科目で実験を実施する。	①-1各単元毎に1度は演示実験・動画教材等を示す。 ①-2各学期の欠点保有者が１０名未満である。 ②定期考査の試験範囲毎に少なくとも1回は実験を実施する。

令和５年度　学校自己評価システムシート（教科編）

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を３本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校

重　点　目　標	生徒一人一人により高い次元で勉強と部活動を両立させるとともに、学校生活をとおして、自己管理能力を育成する。

	学　校　自　己　評　価		
	年　度　目　標		
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
英語	①英語を話す、聞く、書く、読む能力 ②英語を使う上で必要な語彙力 ③他者とコミュニケーションをとり、意見を深めたり、課題を解決する能力 ④授業外で習慣的に学習する能力	①③英語や日本語を用いて、言語活動を行う授業デザインを作成する ②小テストを定期的に行う ④宿題や課題（スタディサプリ等も含む）を定期的に提示する	①②各科目における学期欠点者を１０名以内 ④課題未提出者を各科目受講者の１０％以内
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
保健体育	①生徒同士がコミュニケーションを図り、仲間と共に積極的に運動できる能力。 ②生徒自身が今何をすべきかを考え、主体的に行動できる能力。 ③自らの心身状態を把握し、生涯にわたって健康に留意した意思決定、行動選択が出来る能力。	①②安全に留意しながら集団行動を徹底しながら、教員からの体育技能の指導は当然の事、学習内容を生徒間でアドバイスしたり、グループで考えたりする機会を設け、主体的に活動する授業を展開する。 ③保健授業において知識の伝達とともに、グループで意見交換をしたり、自ら調べ発表させるなどして、知識の定着及び様々な考え方を学び自らの行動実践に繋げる授業を展開する。	①②授業の満足度が５段階（５が最高値）の４または５の割合が９割を超えたか。 ③各学期の欠点保有者が５名以下であったか。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
家庭	①自身の生活を振り返り、人とのつながりを自覚する視点を持つ。 ②生活事象を多角的に捉える能力。 ③コミュニケーションの大切さを知り、他人の意見を受け入れ、肯定的に物事を捉える力。 ④自身や家族だけでなく、主体的に社会をより良いものにしようとする態度。 ⑤成人（社会人）として自立した生活を送るための基礎的な知識・技術の習得。	①②③新聞やインターネット等の日常的な事象を授業の題材とし、グループワーク等を通じて他者の意見を聞く機会を定期的に取り入れる。 ①②③ICTを積極的に活用し、グループワークや発表を行う。 ④様々な外部機関との連携を図り、授業の学びが社会と結びつく課題を年間を通じて設定する。 ⑤成年年齢引き下げについて各単元で触れ、成人としての権利と責任を自覚する授業を行う。	①②授業の70％以上を、時事的な題材として取り上げたか。 ③ICTを用いた調べ学習や発表、グループワークを各単元で必ず行うことができたか。 ④外部機関と連携した授業を年に３回以上実施したか。 ⑤各学期の欠点保有者が５名以下、提出物未定者がゼロ名か。

令和５年度　学校自己評価システムシート（教科編）

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を３本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校

重　点　目　標	生徒一人一人により高い次元で勉強と部活動を両立させるとともに、学校生活をとおして、自己管理能力を育成する。

	学　校　自　己　評　価		
	年　度　目　標		
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
音楽	①音楽作品の鑑賞・演奏を通して個人の知識を深めるとともに音楽を感じる力を高める。 ②西洋音楽に偏ることなく様々な国の多様な音楽に触れ、表現の可能性を探り、音楽そのものを探求する。 ③音楽史を通して世界の変遷を理解し、音楽の枠を超えて、各教科へアプローチをし、自ら進んで調査をする。	①有名な作曲家の作品の演奏・鑑賞を通して作曲家の生涯を学び、作品の素晴らしさを感じる力を養う。また、クラシック音楽にも興味を持たせるために、毎時間イントロクイズを行う。演奏はソロだけでなく少人数でのアンサンブルや全体での合奏・合唱も行う。 ②ワールドミュージックの見地からヨーロッパ以外の国の音楽に触れ、世界には自分たちの知らないたくさんの音楽があることを知る。 ③音楽史で取り上げられる作品を鑑賞し、その時代背景と、作曲家を取り巻く交友関係を明らかにし、作品と作家の理解を深める。鑑賞に関しては、音源だけでなく映像を活用してより理解を深められるようIT機器を活用する。	①学期末にイントロテスト、実技テストを行い理解度や演奏技術の進歩を確認する。またグループ活動を通してアンサンブル力やコミュニケーション力も評価する。 ②ワールドミュージックの理解と興味・関心度をチェックする。 ③実技が不得意な生徒も音楽史や楽器の知識に関するテストして実技と同等の評価をする。
美術	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
	①美術作品の鑑賞・制作を通して個人の美意識を高める。 ②多様な素材に触れ、表現可能性を探り、素材そのものを探求する。 ③美術史を通して世界の変遷を理解し、美術の枠を超えて、各教科へアプローチをし、自ら進んで調査をする。	①実制作にて、美しい形、色を感じて造形感覚を養い、素材、色、形を自信をもって判断出来るように指導する。 ②絵具そのものの原料と化学を用いて、理論的に絵具について学習する。また金属や木材、土に触れ、それぞれの素材の特性を理解する。 ③美術史で取り上げられる作品を鑑賞し、その時代背景と、作家を取り巻く交友関係を明らかにし、作品と作家の理解を深める。随時ICT機器を使用し多くの資料に触れる事で、関連する物事を高精細な画像と共に確認し、新たな気づきが出来る環境を作る。	①、②美術ⅠⅡ　共に芸術科目 としての作品のグレードを保ち ながらも、欠点保有者を出さな い ③実技が不得意な生徒も鑑賞 し、作品についての考察を行い 言葉で表現することで、実技と 同等の評価をする

令和５年度　学校自己評価システムシート（教科編）

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を３本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校

重　点　目　標	生徒一人一人により高い次元で勉強と部活動を両立させるとともに、学校生活をとおして、自己管理能力を育成する。

	学　校　自　己　評　価		
	年　度　目　標		
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
書道	①生涯にわたり書を愛好する心情や感性の育成。 ②古典臨書活動における表現・鑑賞の能力。 ③創作活動における思考力・判断力・表現力。 ④自己及び他者の作品を尊重し合う態度。	①創作活動を多く取り入れ、毛筆だけでなく、実習、鑑賞等の幅広い書活動を展開していくことにより、書への興味関心を引き出す。 ②③字形や線の形状等、表面的な作品理解に留まることなく線質や墨色、余白、風趣等、書を構成する要素を多角的に捉えていく活動を行う。 ②③ICTの積極的活用を行い、授業効果を高めための工夫を行う。 ③④生徒同士の話し合い活動や鑑賞活動を実施し、様々な価値観を共有する。	①各学期の欠点保有者がゼロ名となったか。 ①課題未提出者がゼロ名となったか。 ②③年度当初の作品評価から、全員が高評価もしくは維持をしたか。 ③④小テストやワークシートにおいて、全員が知識や思考力を問う質問への回答の内容が深まったり、記述量が増加したりしたか。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
情報	①コンピュータを利用し、キーボード操作やマウス操作を使うことに慣れさせ、社会に出ても使いこなせる能力。 ②情報を活用できる能力。 ③お互いの価値を認め合い、他人の意見を受け入れ、コミュニケーションをつける力。	①②キーボードやマウス操作に慣れ親しみ、タイピング練習やワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションやプログラミングの作成を行い、一定のスキルを身につけられる授業を実践。 ①②ICTの活用や調べ学習、グループワークや発表の実施。 ③発表を通してお互いを評価し合うことや、教え合うことや学び合いが活発に実現できるように実践。	①②③毎時間着実に積み上げ、タイピング等では、７割くらいの生徒が５分あたり300文字以上の入力ができているか。ＩＣＴを利用した調べ学習、発表、グループワークを単元ごとに行えたか。 ①②③各学期の欠点保有者が5名以下か。
	身につく学力・能力	授業について	授業に対する評価指標
商業	①職業人として必要な基礎的な資質・能力。 ②情報を活用する能力。 ③ビジネスの諸活動を円滑に行う能力。 ④適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。	①「分かる楽しい」授業の実践。 ②ビジネスソフトウェアの活用によって、一定のスキルを身につけられる授業を実践。 ③タイピング練習サイト等を活用し、一定のスキルを短時間で実現できる授業を実践する。	①②③各学期の欠点保有者数が５名以下か。 ②③検定試験の受験希望者の合格率が７０％以上か。